

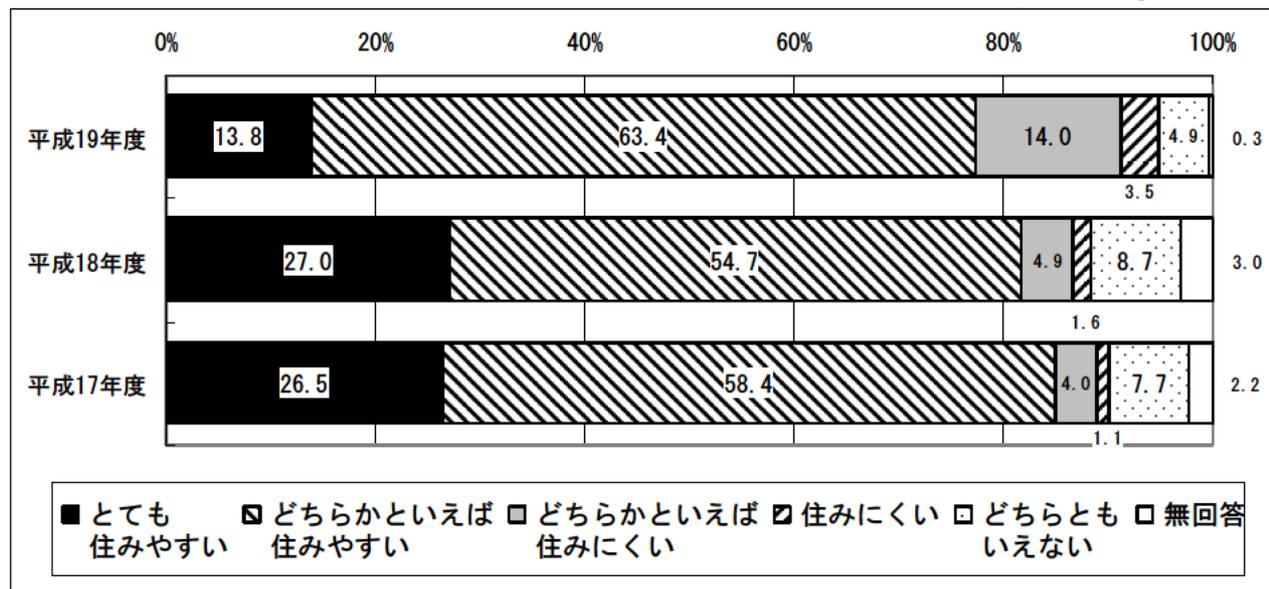
## 7. 三重県の住みやすさについての評価及び今後の定住意向

問2-1 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

(回答は単一選択式)

○全体

(集計資料 p.136)



### 平成19年度

全体では、13.8%の人が「とても住みやすい」と答えており、これに「どちらかといえば住みやすい」(63.4%)を合わせると、「住みやすい」と答えた人は77.2%となっている。

一方、「住みにくい」(3.5%)や「どちらかといえば住みにくい」(14.0%)と答えた“住みにくい”と感じている人は、17.5%となっている。

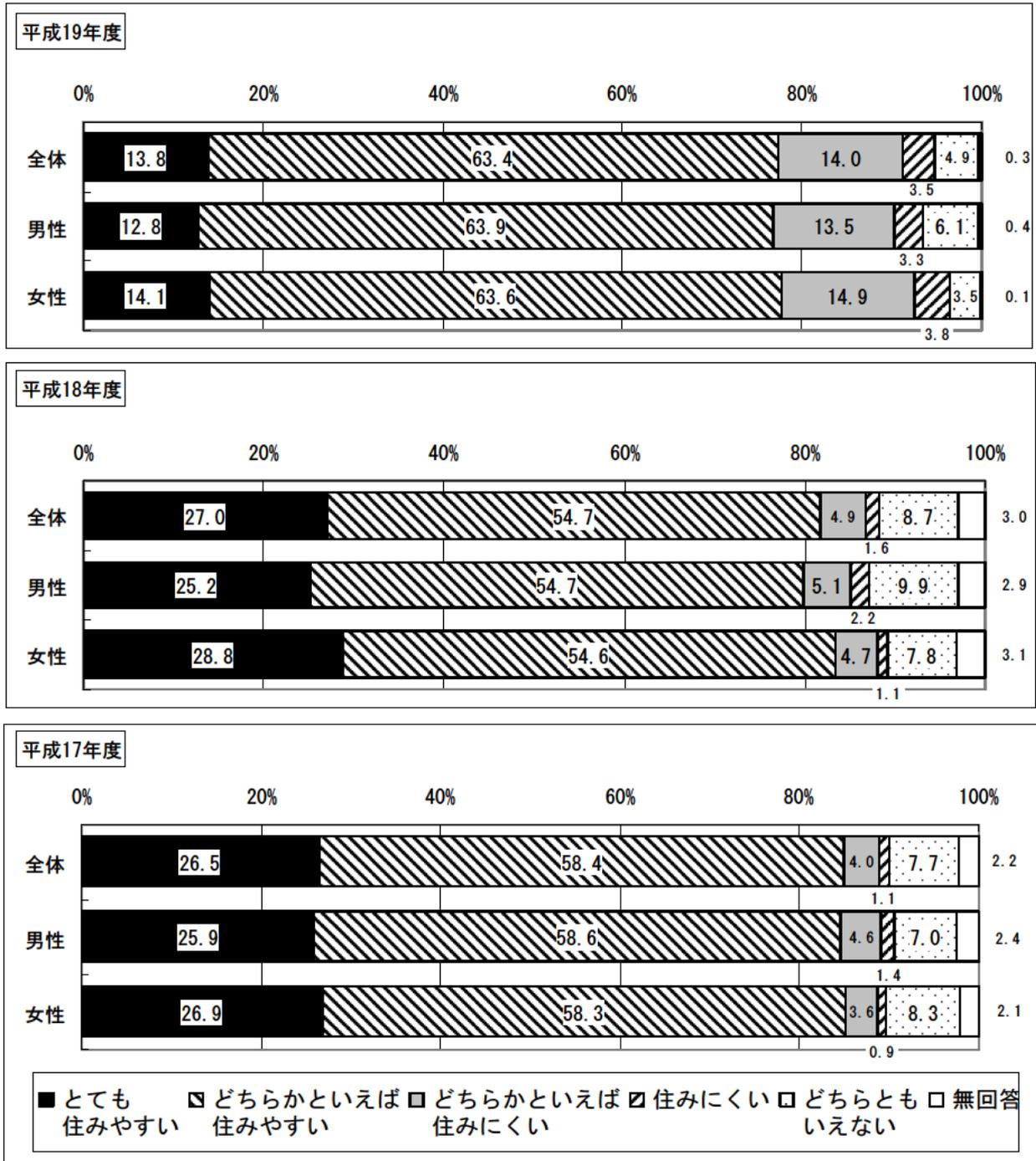
### 平成17年度、平成18年度との比較

「とても住みやすい」と積極的に評価する人は、18年度に比べて約半分に減少しており、「住みやすい」と答えた人の割合も4.5ポイント減少している。

一方、「住みにくい」と感じている人の割合は、18年度から19年度にかけて11.0ポイントと大幅に増加している。

○性 別

(集計資料 p. 136)



**平成 19 年度**

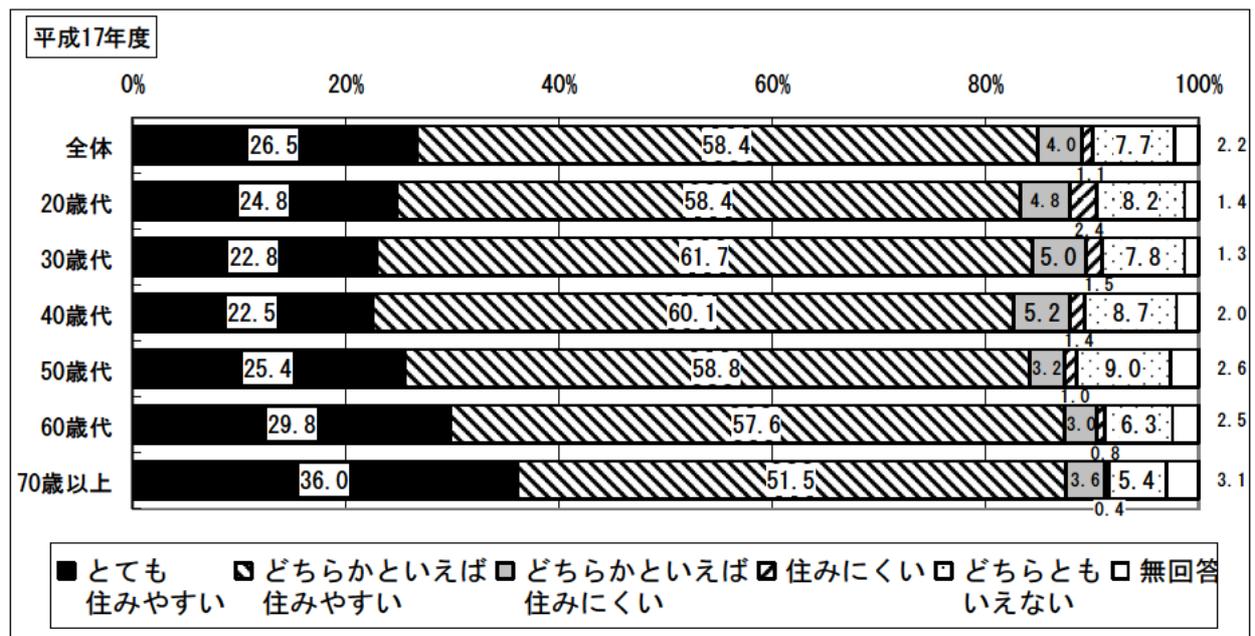
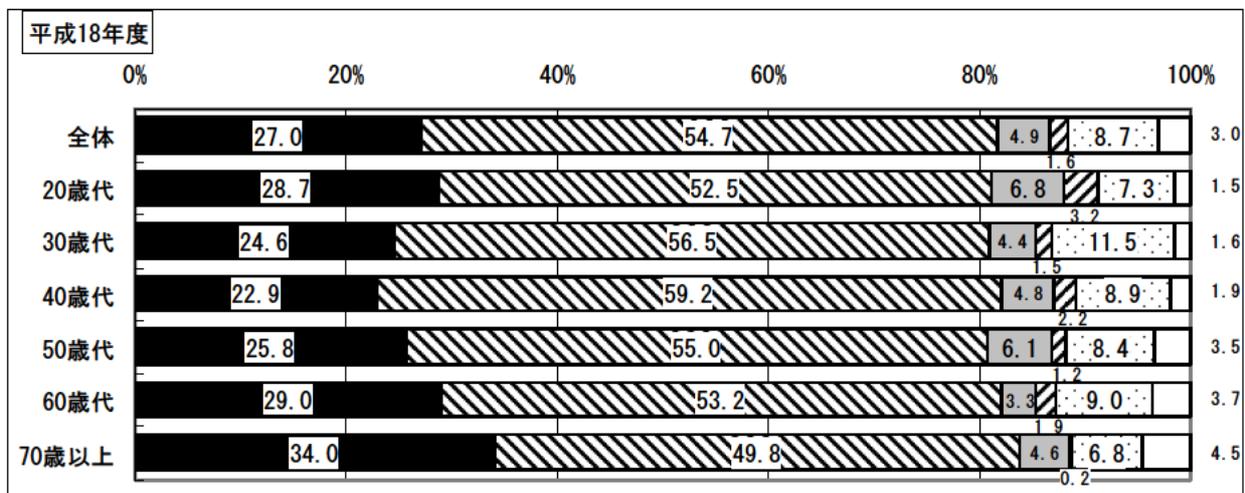
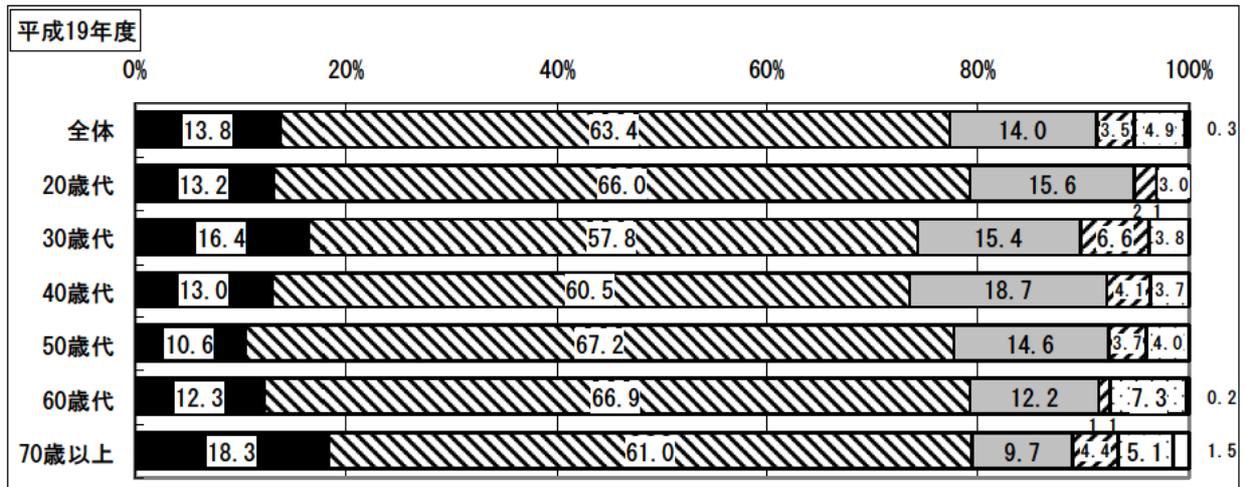
“住みやすい”と答えた人の割合は、男性（76.7%）、女性（77.7%）となっており、性別による違いはあまりみられない。

**平成 17 年度、平成 18 年度との比較**

性別では、“住みやすい”と答えた人の割合は、男性、女性とも 17 年度から 19 年度にかけて年々減少し、全体では 7.7 ポイント、男性は 7.8 ポイント、女性は 7.5 ポイント減少している。

○年齢層別

(集計資料 p.136)



#### 平成 19 年度

“住みやすい”と答えた人の割合は、全ての年齢層で7割を超えている。

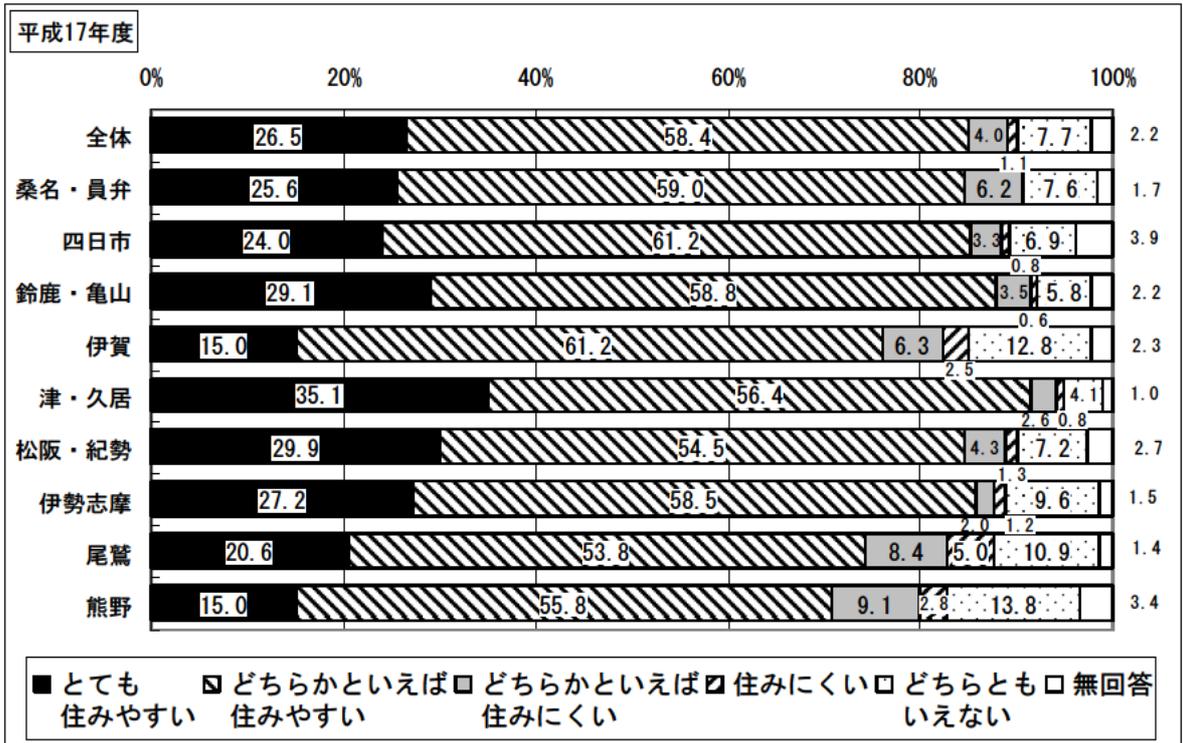
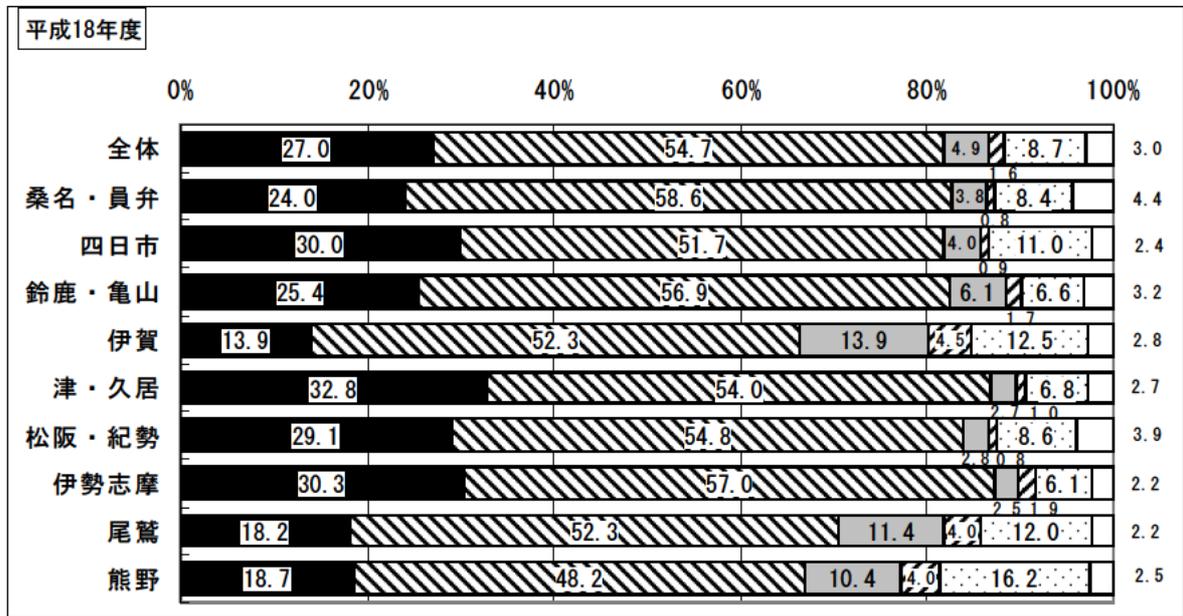
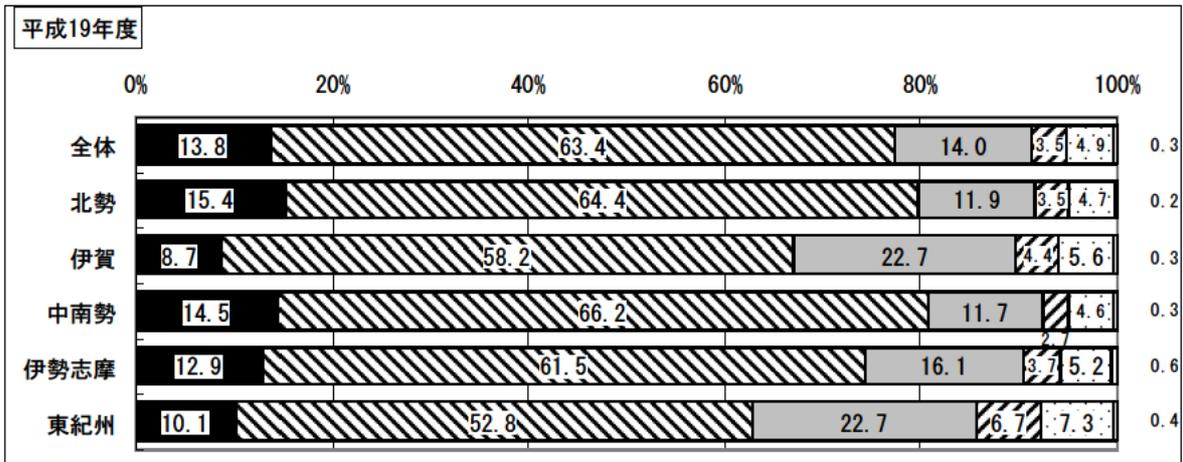
#### 平成 17 年度、平成 18 年度との比較

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、18年度から19年度にかけていずれの年代でも減少しており、特に20歳代、50歳代以上では15ポイント以上減少している。

また、“住みやすい”と答えた人の割合は、17年度から19年度にかけて全ての年齢層で減少している。中でも18年度から19年度にかけて40歳代は8.6ポイント減少している。

○地域別

(集計資料 p. 136)



#### 平成 19 年度

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、北勢地域（15.4%）や中南勢地域（14.5%）では、わずかに県全体（13.8%）を上回っているものの、全体的には低くなっている。特に伊賀地域では8.7%と1割にも満たなかった。「住みやすい」と答えた人の割合は、中南勢地域（80.7%）、北勢地域（79.8%）で高く約8割を占めているのに対し、伊賀地域（66.9%）、東紀州地域（62.9%）では、約6割台と低くなっている。

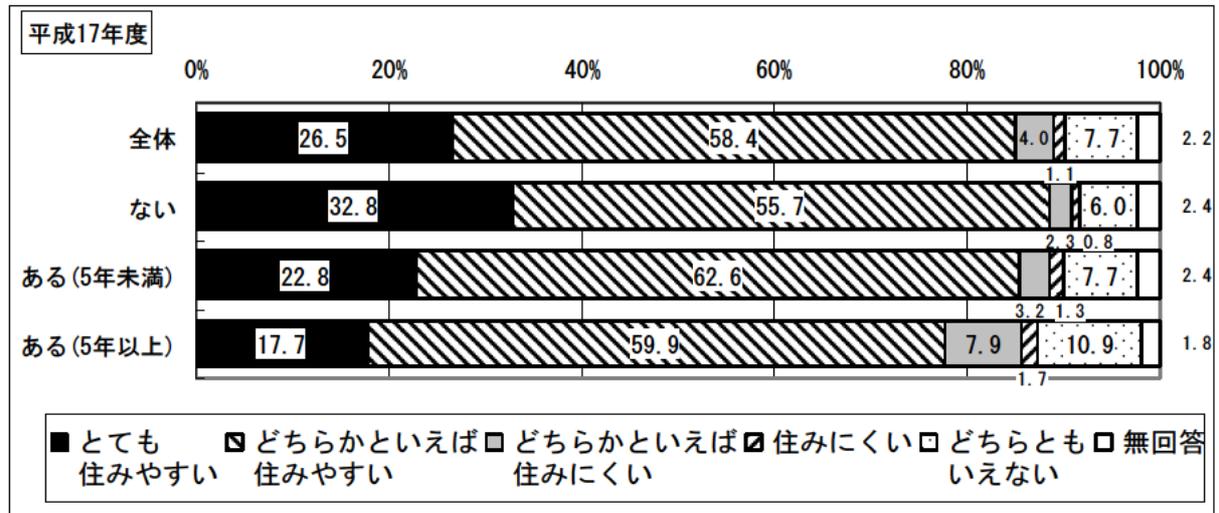
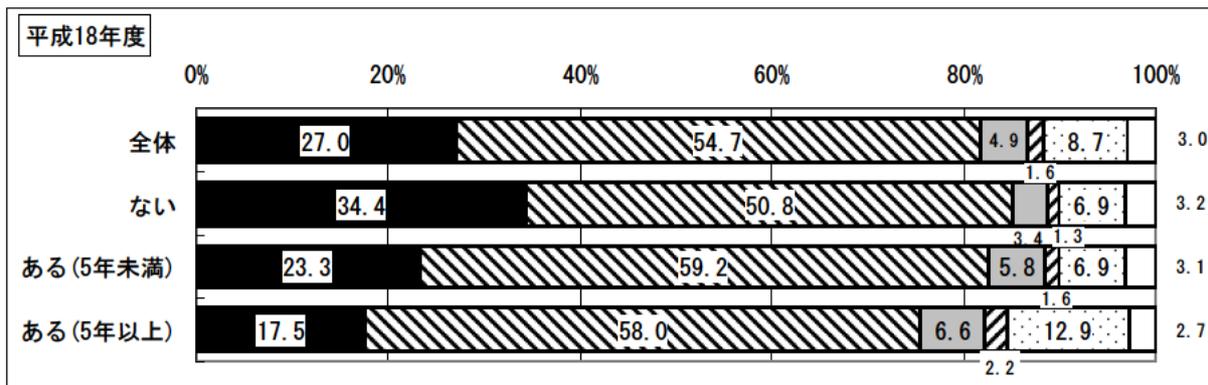
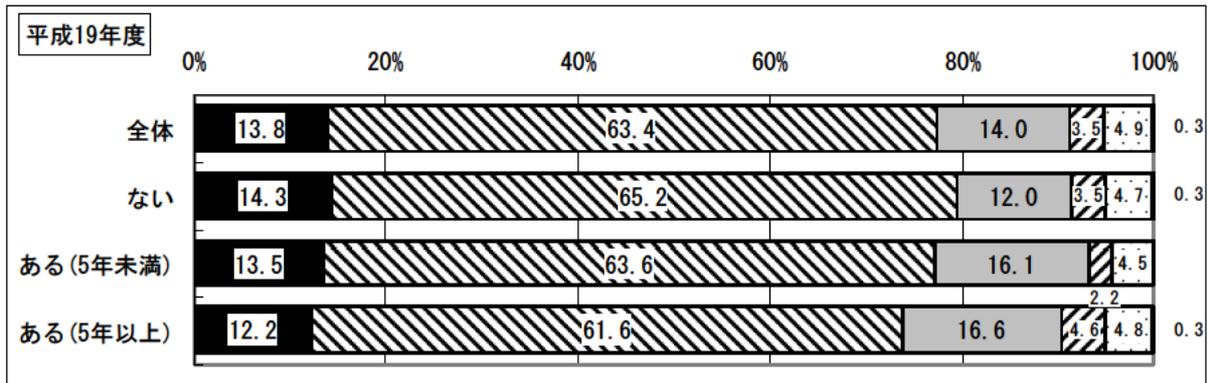
#### 平成 17 年度、平成 18 年度との比較

17 年度及び 18 年度と比較すると、地域の割振は異なっているものの、各地域において「とても住みやすい」は全体的に概ね低くなっている。

一方、「どちらかといえば住みやすい」については、17 年度の尾鷲、熊野各生活創造圏を除くと、全体的にやや高くなっている傾向にある。「どちらかといえば住みにくい」については、全体的にかなり高くなっている傾向にある。伊勢志摩地域では、「とても住みやすい」が 17.4 ポイント低くなり、また「どちらかといえば住みにくい」が 13.6 ポイント高くなっている。

○県外在住の経験別

(集計資料 p.136)



平成19年度

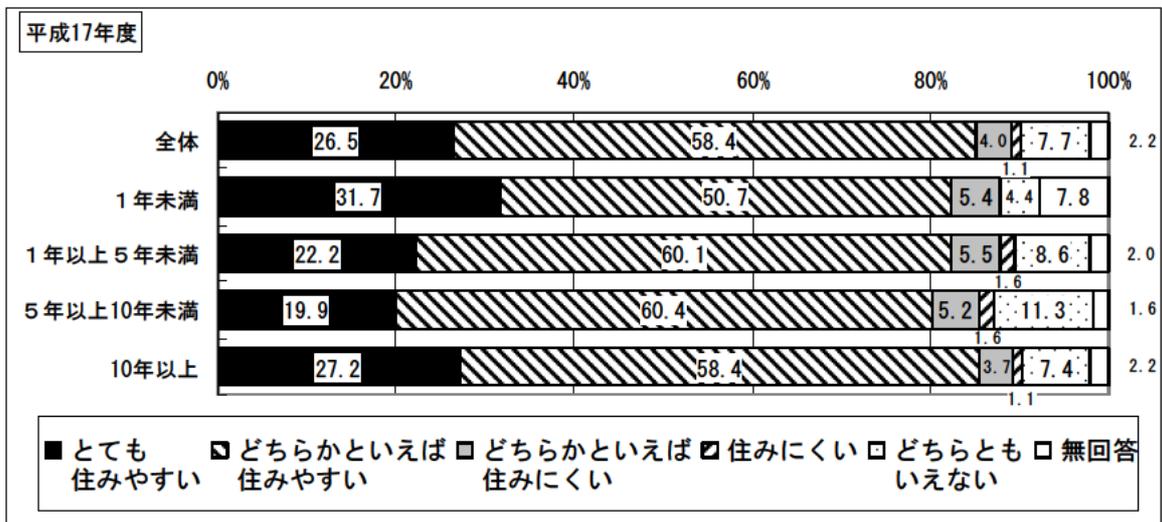
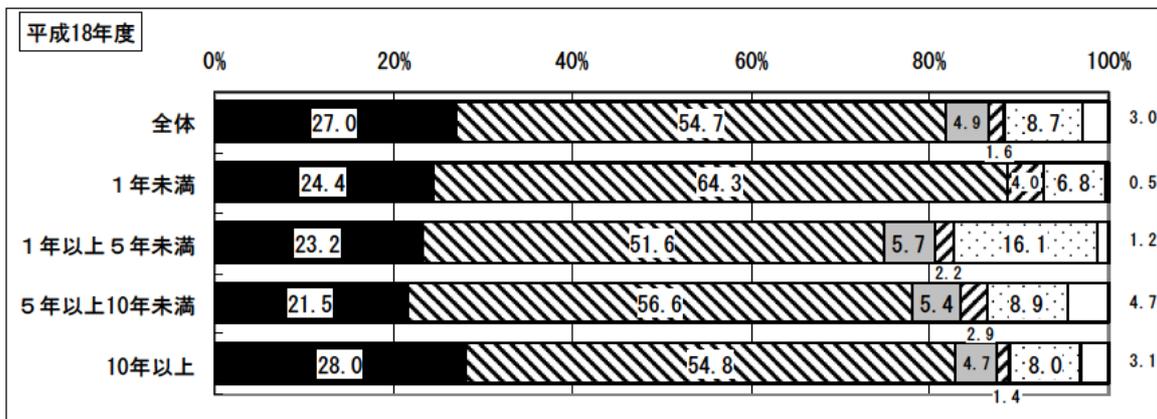
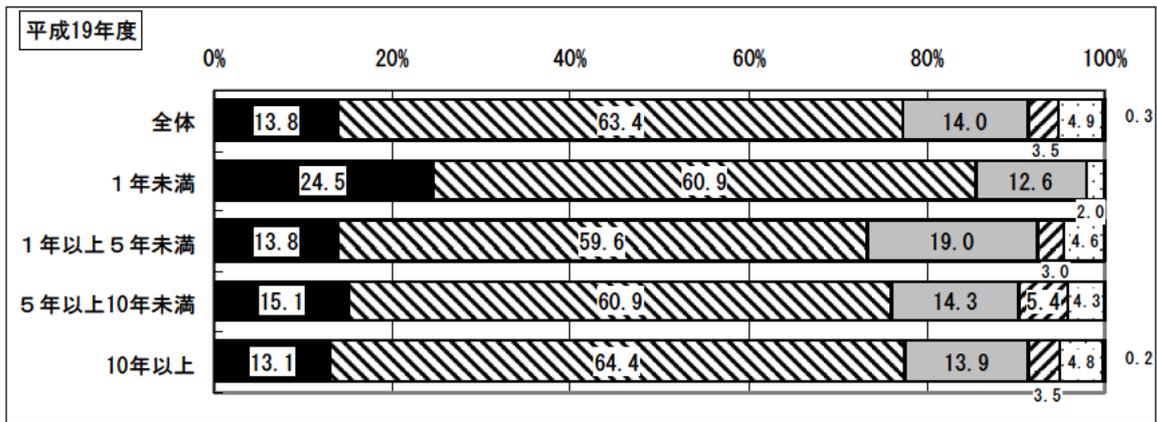
“住みやすい”と答えた人の割合は、県外在住の経験が「ない人」(79.5%)が「ある人」(5年未満が77.1%、5年以上が73.8%)を上回っており、調査結果を見る限りでは県外在住経験年数が長いほど“住みやすい”と感じている人が少ない傾向にある。

平成17年度、平成18年度との比較

「とても住みやすい」と答えた人の割合は、18年度に比べていずれの階層でも大幅に減少しており、特に県外在住の経験がない人では20ポイントも少なくなっている。また、“住みやすい”と答えた人の割合は、いずれの階層においても年々減少傾向にある。

## ○居住年数

(集計資料 p.136)



### 平成19年度

居住年数別では、“住みやすい”と答えた人の割合は、居住年数が1年未満の人が最も高く85.4%と約9割を占め、次いで10年以上の人が77.5%、5年以上10年未満が76.0%となっている。

### 平成17年度、平成18年度との比較

“住みやすい”と答えた人の割合は、17年度から18年度にかけての1年未満の居住年数を除き、17年度から19年度にかけて全体として減少傾向にある。また、18年度から19年度にかけてはいずれの居住年数においても減少しており、特に10年以上では5.3ポイント減少している。

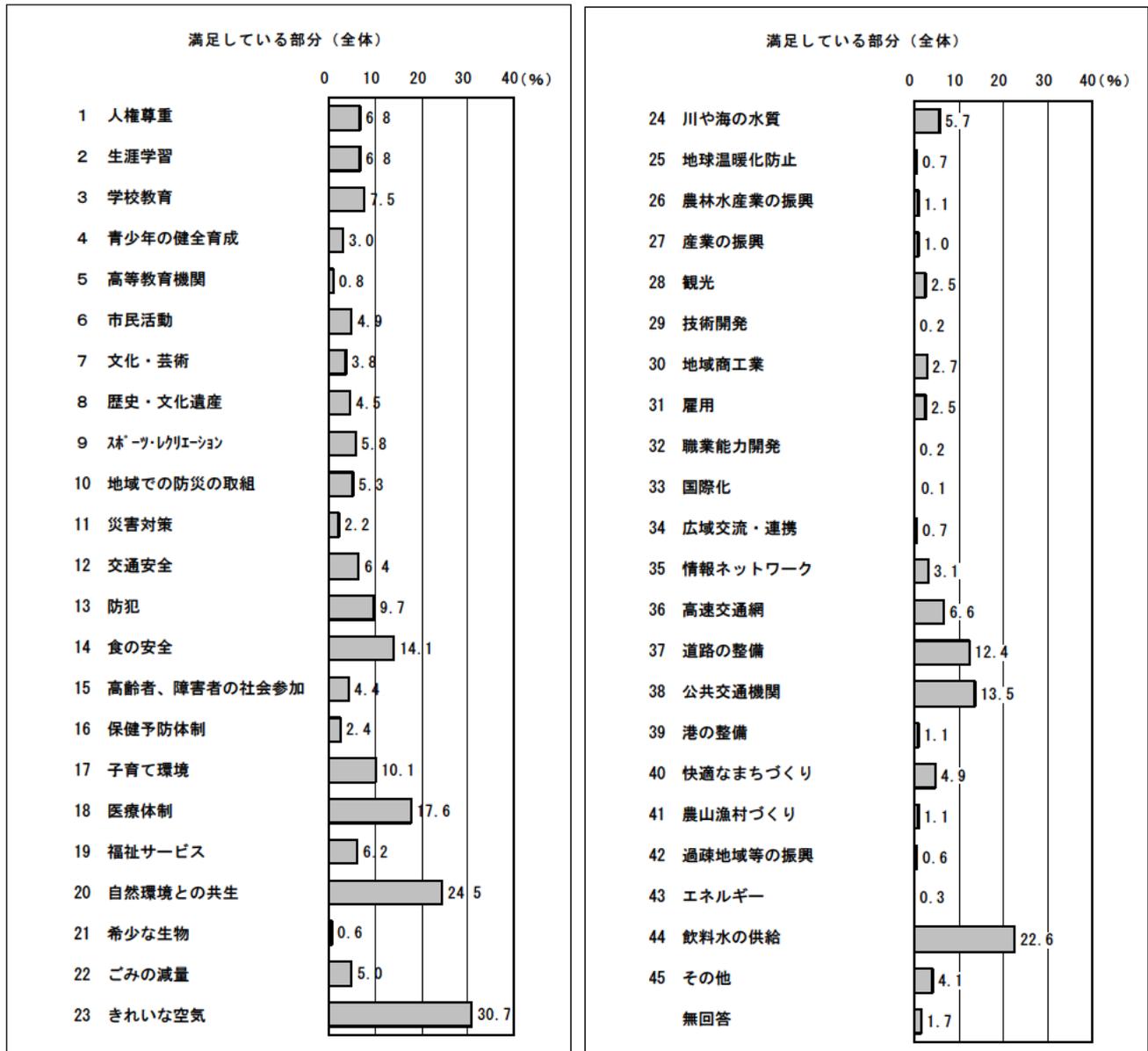


【問2-1で、1または2に○をつけた方だけにおうかがいします】

問2-2 現在お住まいの地域が住みやすいと感じになるのは、問1の44項目のうち、どの部分に満足されているからですか。(回答は3つ選択式)

○全体

(集計資料 p.138~143)



住みやすいと感じている点については、「きれいな空気」と答えた人の割合が30.7%と最も高く、次いで「自然環境との共生」(24.5%)、「飲料水の供給」(22.6%)の順となっており、県民の多くは自然環境を評価していることがうかがえる。これらに次ぐものとしては、「医療体制」(17.6%)、「食の安全」(14.1%)、「公共交通機関」(13.5%)、「道路の整備」(12.4%)などがあげられている。

年齢層別 上位5項目

(単位：%)

年齢層別	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	23.きれいな空気 30.7	20.自然環境との共生 24.5	44.飲料水の供給 22.6	18.医療体制 17.6	14.食の安全 14.1
20歳代	38.公共交通機関 24.7	20.自然環境との共生 23.8	23.きれいな空気 22.8	37.道路の整備 18.0	44.飲料水の供給 17.3
30歳代	23.きれいな空気 25.2	20.自然環境との共生 24.6	17.子育て環境 21.0	18.医療体制 16.7	44.飲料水の供給 15.6
40歳代	23.きれいな空気 26.6	20.自然環境との共生 26.2	44.飲料水の供給 19.7	17.子育て環境 15.9	18.医療体制 14.9
50歳代	23.きれいな空気 37.5	20.自然環境との共生 31.4	44.飲料水の供給 23.8	38.公共交通機関 16.4	18.医療体制 15.0
60歳代	23.きれいな空気 31.8	44.飲料水の供給 25.7	20.自然環境との共生 22.0	18.医療体制 16.8	14.食の安全 16.3
70歳以上	23.きれいな空気 28.8	44.飲料水の供給 27.4	18.医療体制 25.6	20.自然環境との共生 18.9	14.食の安全 17.7

- ・全体の上位5項目では、「きれいな空気」「自然環境との共生」「飲料水の供給」がいずれの年代においても上位5項目としてあげられており、「医療体制」は20歳代を除くすべての年代で、「食の安全」は60歳以上で上位5項目としてあげられている。
- ・上記以外の項目では、「子育て環境」が30歳代、40歳代で、「道路の整備」が20歳代で、それぞれ上位5位までに入っている。また、「公共交通機関」は20歳代では第1位に50歳代でも第4位にあげられている。

地域別 上位5項目

(単位：%)

地域別	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	23.きれいな空気 30.7	20.自然環境との共生 24.5	44.飲料水の供給 22.6	18.医療体制 17.6	14.食の安全 14.1
北勢地域	44.飲料水の供給 25.1	23.きれいな空気 21.2	20.自然環境との共生 20.2	18.医療体制 20.0	38.公共交通機関 15.9
伊賀地域	23.きれいな空気 47.0	20.自然環境との共生 36.1	44.飲料水の供給 23.9	14.食の安全 11.8	13.防犯 10.4
中南勢地域	23.きれいな空気 30.9	20.自然環境との共生 22.9	18.医療体制 20.5	44.飲料水の供給 20.3	38.公共交通機関 15.4
伊勢志摩地域	23.きれいな空気 41.3	20.自然環境との共生 31.2	44.飲料水の供給 19.1	14.食の安全 17.1	18.医療体制 24.川や海の水質 11.6
東紀州地域	23.きれいな空気 59.5	20.自然環境との共生 34.7	24.川や海の水質 27.7	44.飲料水の供給 22.8	13.防犯 14.食の安全 15.1

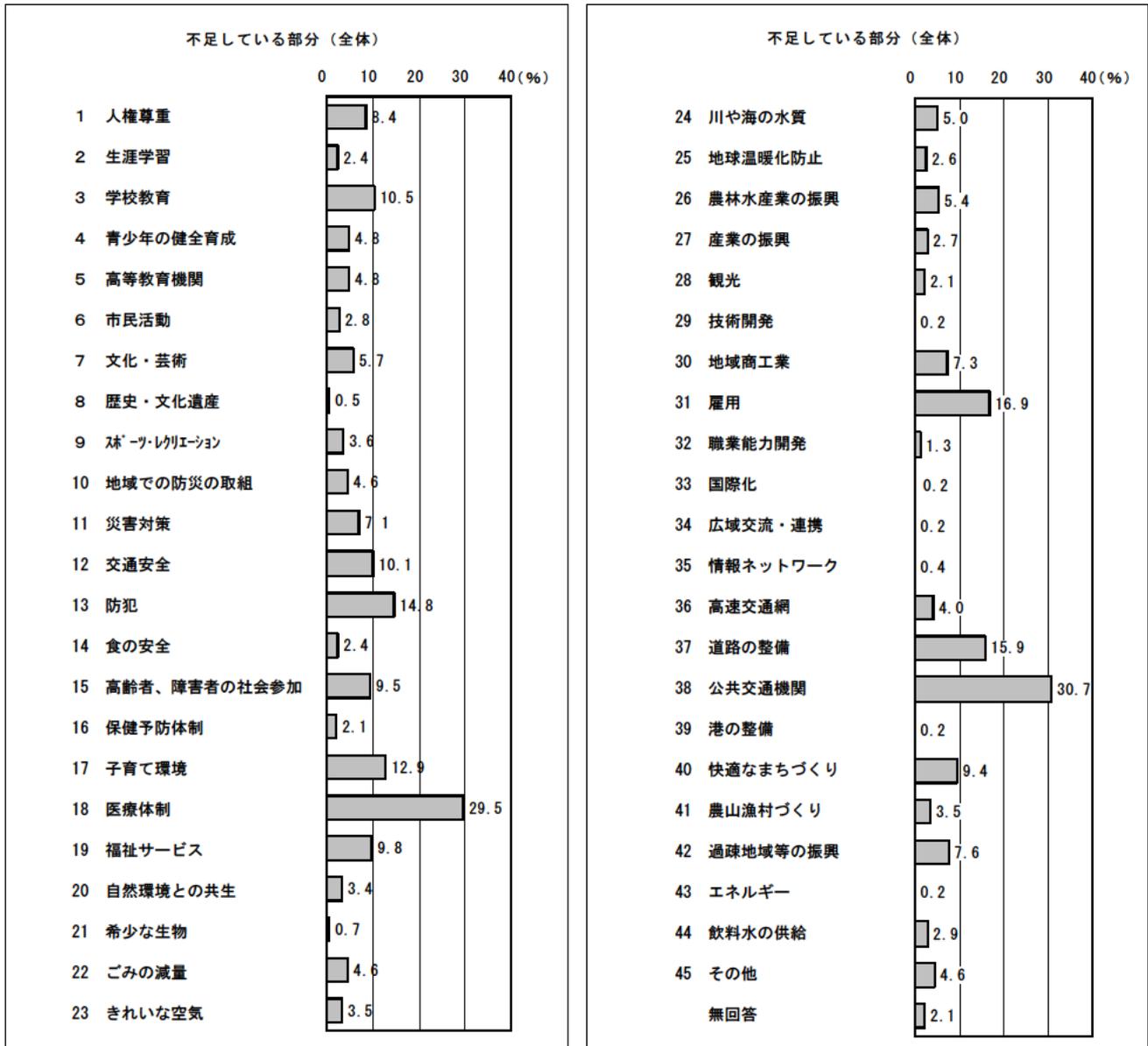
- ・全体の上位5項目では、「きれいな空気」「自然環境との共生」「飲料水の供給」が全地域で上位5項目としてあげられており、「医療体制」「食の安全」は3地域で上位5位までに入っている。
- ・上記以外の項目では、「防犯」「川や海の水質」「公共交通機関」は2地域で、それぞれ上位5位までに入っている。

【問2-1で、3または4に○をつけた方だけにおうかがいします】

問2-3 現在お住まいの地域が住みにくいと感じになるのは、問1の44項目のうち、どの部分が不足しているからですか。(回答は3つ選択式)

○全体

(集計資料 p.144~149)



住みにくいと感じている点については、「公共交通機関」と答えた人の割合が30.7%と最も高く、次いで「医療体制」が29.5%となっており、これら2つの項目が他と比較して多くなっている。これらに次ぐものとしては、「雇用」(16.9%)、「道路の整備」(15.9%)、「防犯」(14.8%)などがあげられている。

年齢層別 上位5項目

(単位：%)

年齢層別	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	38.公共交通機関 30.7	18.医療体制 29.5	31.雇用 16.9	37.道路の整備 15.9	13.防犯 14.8
20歳代	38.公共交通機関 56.4	13.防犯 32.7	37.道路の整備 26.7	31.雇用 18.6	17.子育て環境 16.3
30歳代	38.公共交通機関 36.1	17.子育て環境 35.2	03.学校教育 23.3	18.医療体制 21.4	37.道路の整備 17.2
40歳代	18.医療体制 26.8	31.雇用 24.2	38.公共交通機関 23.8	13.防犯 18.7	03.学校教育 17.4
50歳代	18.医療体制 32.4	38.公共交通機関 25.7	31.雇用 22.1	37.道路の整備 17.3	30.地域商工業 14.9
60歳代	18.医療体制 41.3	38.公共交通機関 24.4	31.雇用 16.4	15.高齢者、障害者の社会参加 14.1	11.災害対策 13.9
70歳以上	18.医療体制 49.6	38.公共交通機関 39.5	15.高齢者、障害者の社会参加 18.8	13.防犯 18.4	37.道路の整備 17.6

- ・ 全体の上位5項目では、「公共交通機関」がいずれの年代においても上位5項目としてあげられている。また、「医療体制」は40歳代以上で第1位に、30歳代でも第4位にあげられており、「雇用」は20歳代、40～60歳代で、「道路の整備」は20～30歳代、50歳代、70歳代以上で、「防犯」は20歳代、40歳代、70歳代以上で、それぞれ上位5位までに入っている。
- ・ 上記以外の項目では、「子育て環境」が20～30歳代で、「学校教育」が30～40歳代で、「高齢者、障害者の社会参加」が60歳代以上で、それぞれ上位5位までに入っている。
- ・ また、「地域商工業」は50歳代で、「災害対策」は60歳代で、それぞれ上位5位までに入っている。

地域別 上位5項目

(単位：%)

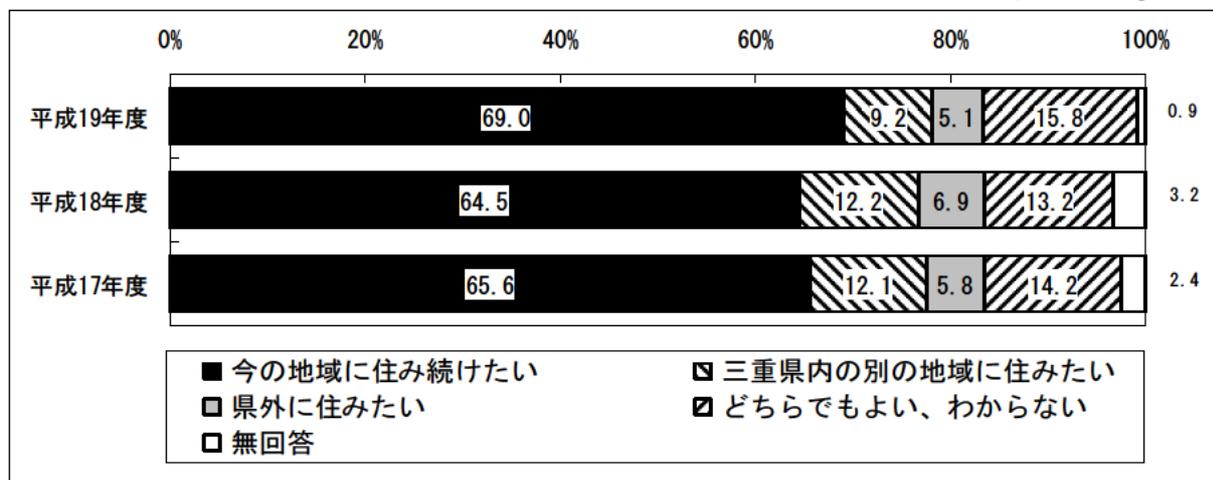
地域別	1位	2位	3位	4位	5位
県全体	38.公共交通機関 30.7	18.医療体制 29.5	31.雇用 16.9	37.道路の整備 15.9	13.防犯 14.8
北勢地域	38.公共交通機関 32.9	13.防犯 25.3	18.医療体制 17.7	37.道路の整備 15.2	12.交通安全 17.子育て環境 12.7
伊賀地域	18.医療体制 39.9	38.公共交通機関 39.9	37.道路の整備 19.0	17.子育て環境 17.3	31.雇用 16.7
中南勢地域	18.医療体制 26.4	38.公共交通機関 26.4	31.雇用 15.4	15.高齢者、障害者の社会参加 14.3	37.道路の整備 14.3
伊勢志摩地域	18.医療体制 37.0	31.雇用 31.5	38.公共交通機関 23.9	37.道路の整備 15.2	11.災害対策 40.快適なまちづくり 12.0
東紀州地域	18.医療体制 59.3	31.雇用 33.8	38.公共交通機関 26.2	42.過疎地域等の振興 26.2	36.高速交通網 21.4

- ・ 全体の上位5項目では、「公共交通機関」「医療体制」が全地域で上位5項目としてあげられており、「雇用」「道路の整備」は4地域で、それぞれ上位5位までに入っている。
- ・ 上記以外の項目では、「子育て環境」が2地域で、「防犯」「交通安全」が北勢地域で、「高齢者、障害者の社会参加」が中南勢地域で、「災害対策」「快適なまちづくり」が伊勢志摩地域で、「過疎地域等の振興」「高速交通網」が東紀州地域で、それぞれ上位5位までに入っている。

問 2 - 4 あなたは今後も現在の地域に住みたいと思いますか。(回答は単一選択式)

○全 体

(集計資料 p. 150)



平成 19 年度

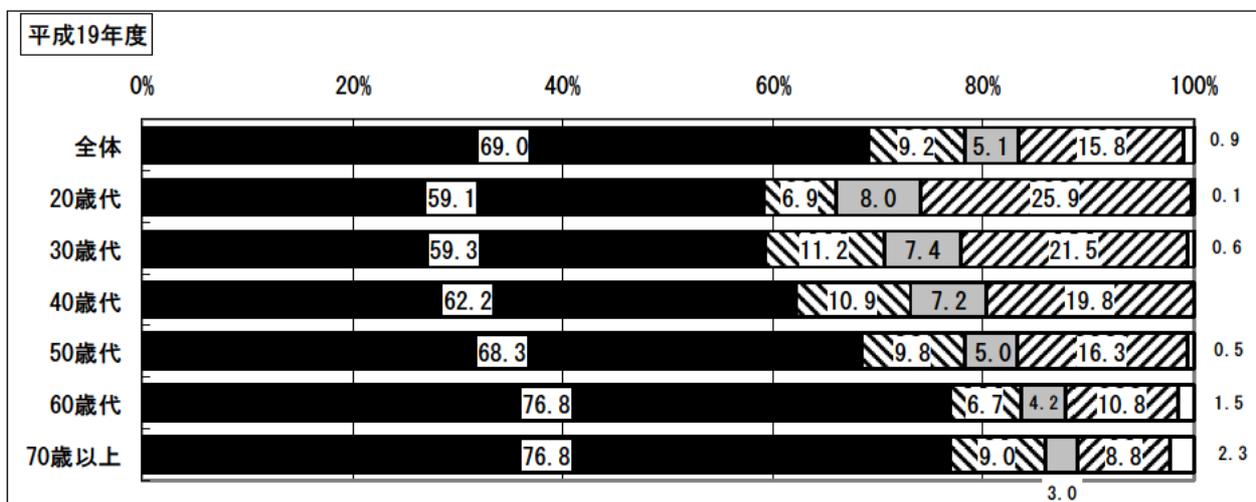
全体では、「今の地域に住み続けたい」と答えた人の割合が 69.0%となっており、これに「三重県内の別の地域に住みたい」(9.2%)を合わせた“今後も三重県に住みたい”と答えた人の割合は約 8 割 (78.2%) を占めている。

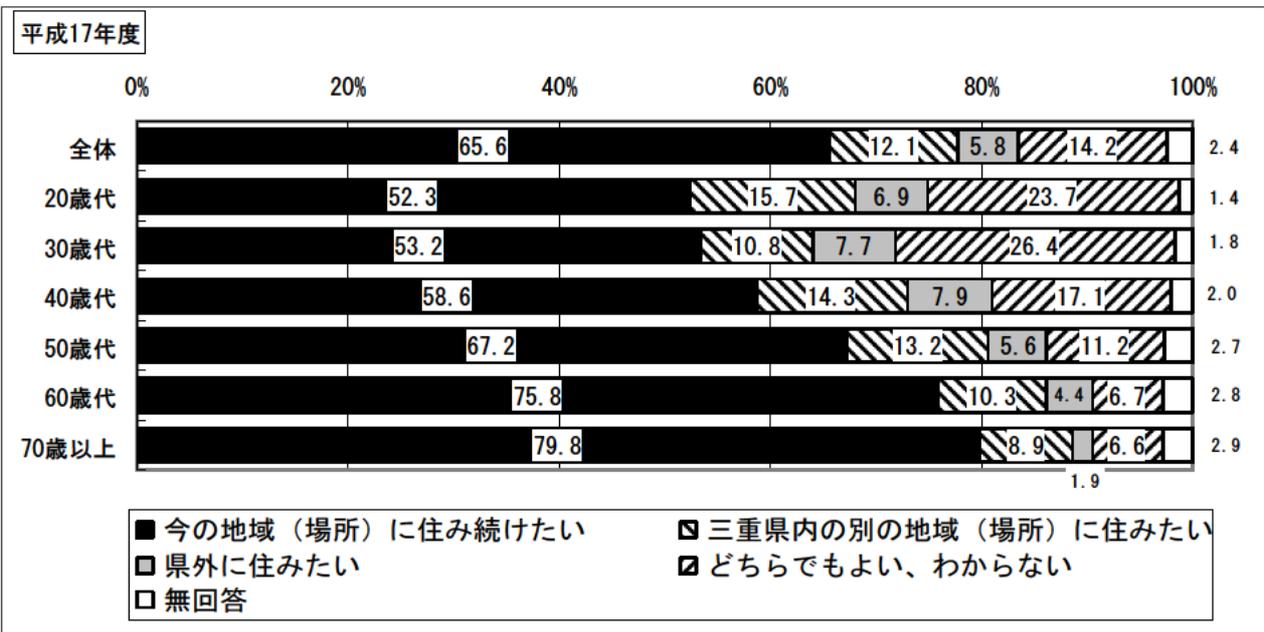
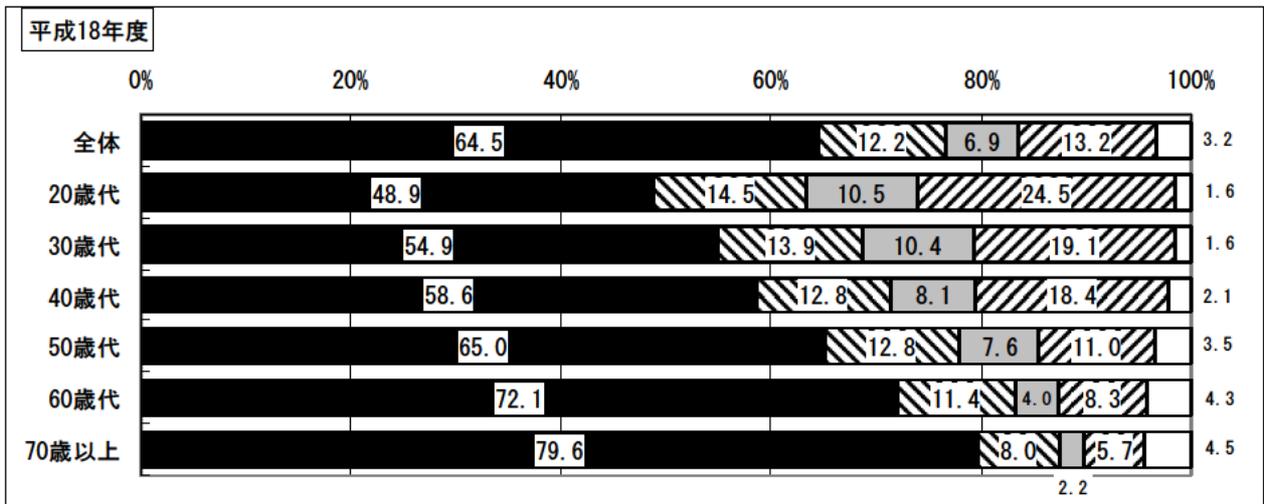
平成 17 年度、平成 18 年度との比較

「今の地域に住み続けたい」と答えた人は、17 年度に比べて 3.4 ポイント、18 年度に比べて 4.5 ポイント増加している。

○年齢層別

(集計資料 p. 150)





平成19年度

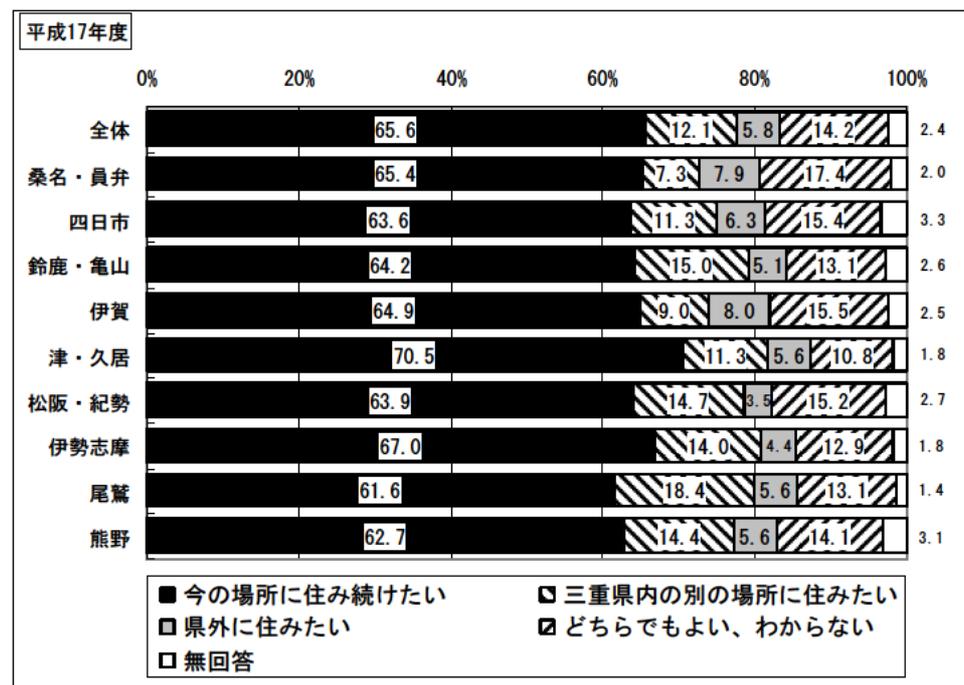
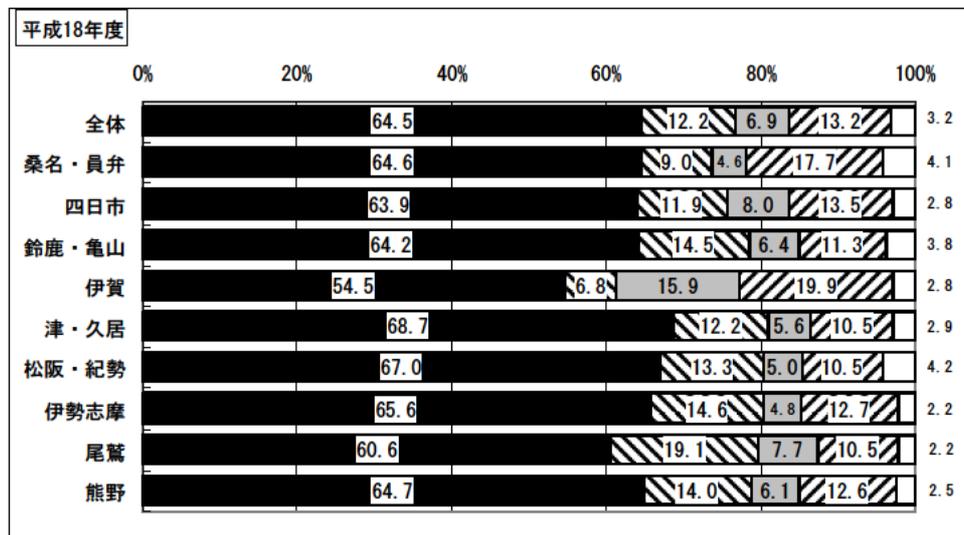
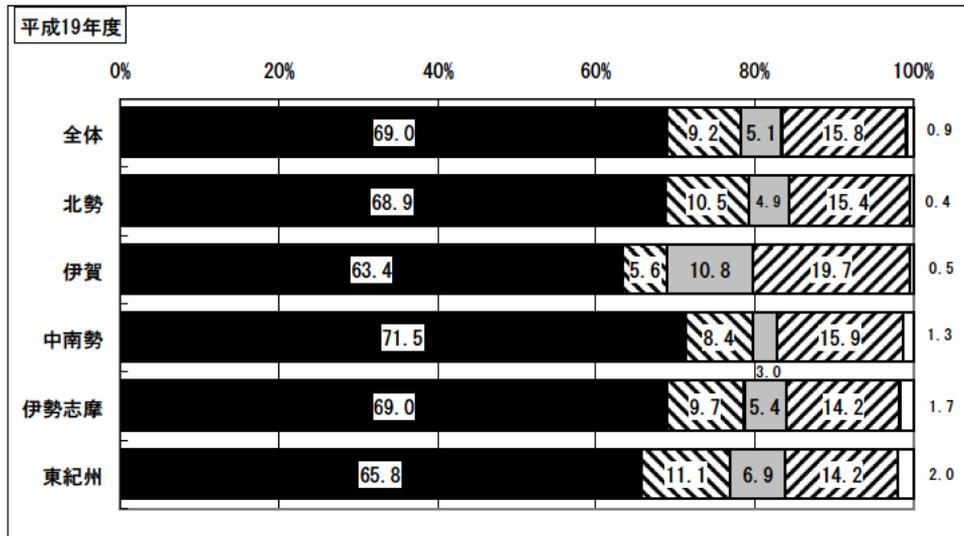
年齢層別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、年齢とともに高くなる傾向にあり、60歳以上では約8割を占めている。また、「今後も三重県に住みたい」と答えた人の割合は全ての年齢層で6割を超えており定住意向は高くなっている。中でも60歳以上では定住意向は8割を超えている。

平成17年度、平成18年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合について、19年度と17年度及び18年度を比較すると、17年度、18年度に対し、19年度は70歳以上を除くいずれの年代においても増加しており、特に20歳代では18年度に対し10.2ポイント増加している。また、「今後も三重県に住みたい」と答えた人の割合について19年度を18年度と比較すると、70歳代以上で1.8ポイント減少し、60歳代で横ばいの他は増加している。

○地域別

(集計資料 p. 150)



#### 平成 19 年度

地域別では、「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、伊賀地域（63.4%）を除くその他の地域では定住意向は約 7 割を占めている。

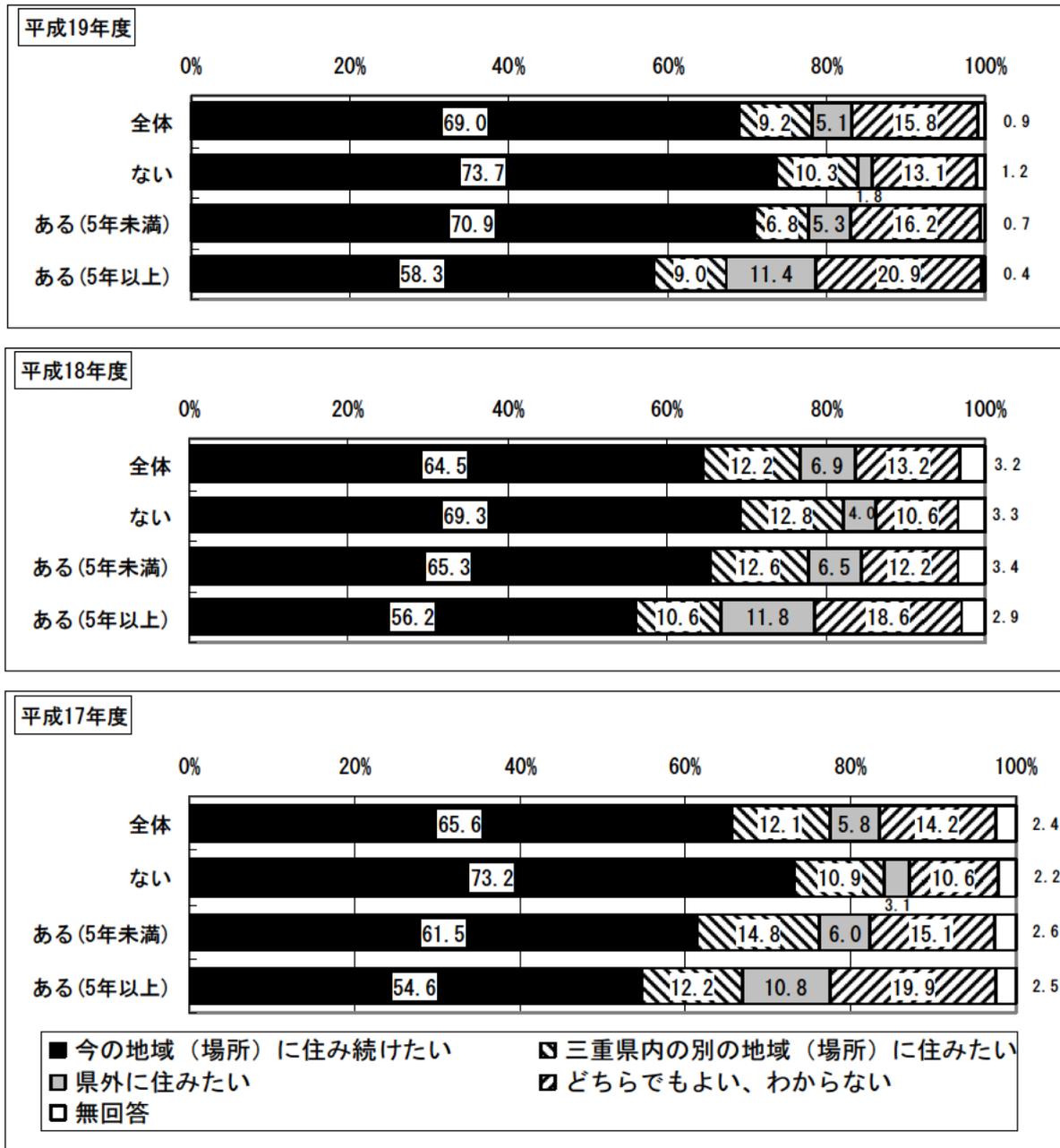
#### 平成 17 年度、平成 18 年度との比較

「今の場所に住みたい」と答えた人の割合は、地域の割振は異なっているものの、伊賀地域を除いた他の地域において、17 年度、18 年度に比べると、概ね増加している。

また、伊賀地域では、18 年度と比較すると 8.9 ポイント増加しているが、17 年度と比較すると 1.5 ポイント減少している。

## ○県外在住の経験別

(集計資料 p. 150)



### 平成19年度

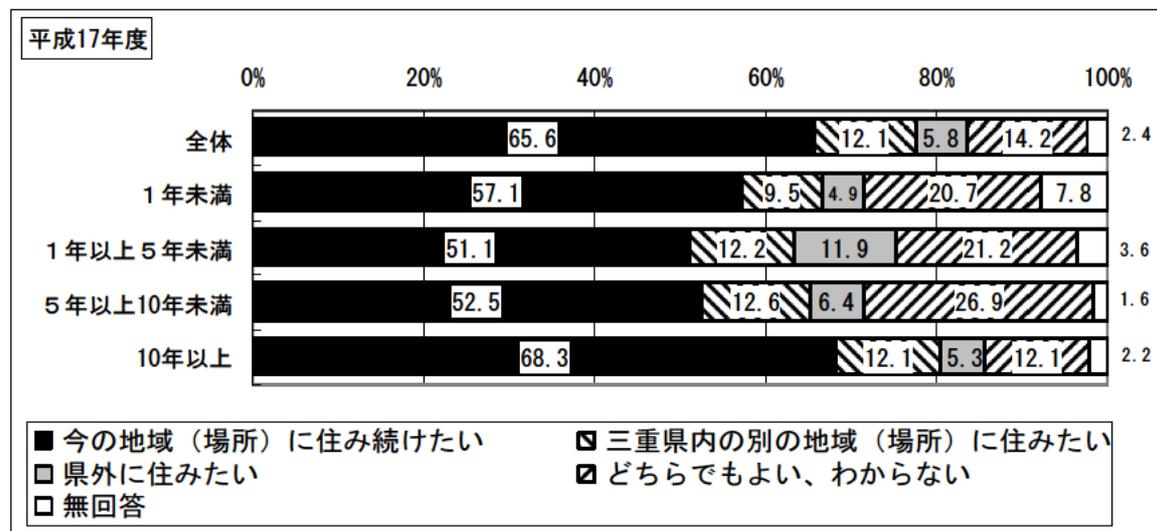
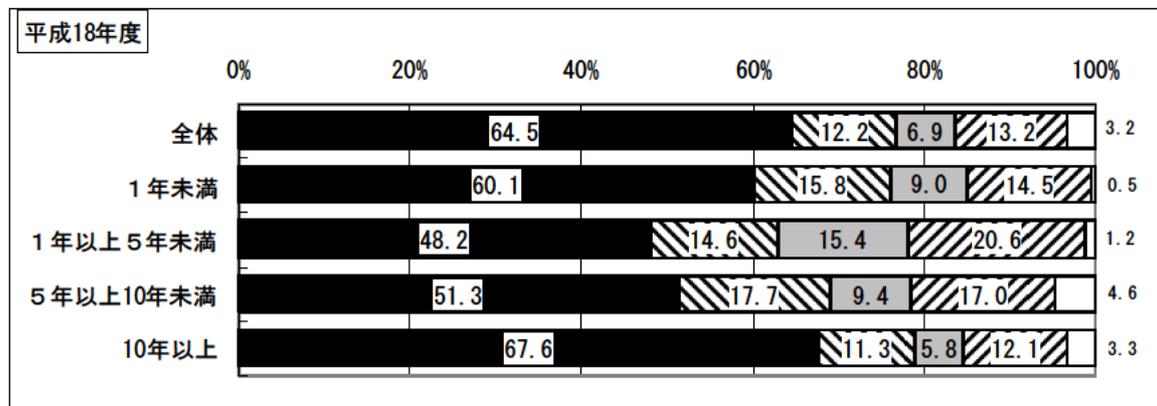
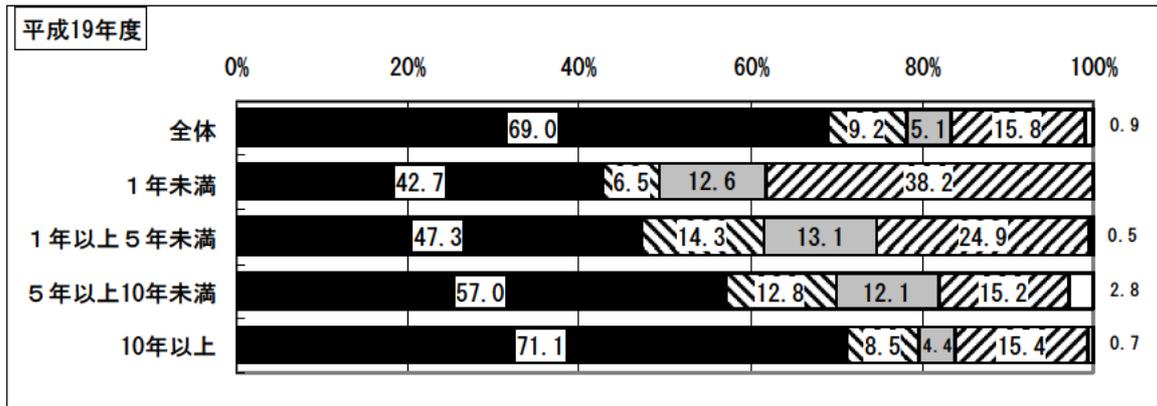
県外在住経験別では、「今の地域（場所）に住み続けたい」と答えた人の割合は、県外在住経験が「ある人」に比べ県外在住経験が「ない人」の方が高くなっている。

### 平成17年度、平成18年度との比較

「今の地域（場所）に住み続けたい」と答えた人の割合について、19年度と17年度及び18年度を比較すると、17年度、18年度に対し、19年度は県外在住経験のあるなしにかかわらず、いずれの階層も増加している。

## ○居住年数

(集計資料 p. 150)



### 平成19年度

居住年数別では、居住年数が長くなるにしたがって、「今の地域(場所)に住み続けたい」と考えている人の割合は高くなっており、10年以上の人では約7割(71.1%)を占めている。

### 平成17年度、平成18年度との比較

「今の地域(場所)に住み続けたい」と答えた人の割合について、19年度と17年度及び18年度を比較すると、17年度、18年度に対し、19年度は居住年数が1年未満、1年以上5年未満の人では減少しているのに対し、5年以上10年未満、10年以上の人では増加している。